

テーマ:

# 三つ星トマトプロジェクト

～おいしい えいよういっぱい 愛情たっぷりのトマト作り～

神奈川県  
横浜市立  
六浦南小学校  
中澤先生 稲垣先生 荒木先生



## この活動の特徴



### 「凜々子」活用のポイント①

愛着を持って育てていくために  
「三つ星トマト」と名前をつけた

### 「凜々子」活用のポイント②

「三つ星トマト」の魅力を知ってもらうため  
全校に向けた告知活動を行った

## 活動のねらい



- 畑で栽培する際に直面する課題を解決する力を養う
- 野菜の栽培を通して、生産者の想いに気づききっかけを作る

## 活動の概要と流れ

対象学年 : 3年生 (71名)  
実践期間 : 4～10月

時期	学習活動
4月	<p>たくさん収穫するためには、どうすればよいかを考える</p> <p>図書館の本やインターネットでトマトの育て方の情報を集める</p> <p>苗を定植し、水や肥料を与える</p> <p>芽かき、追肥、支柱立て、雑草取りを行う</p>
7月	<p>収穫を開始。収穫したトマトを冷凍保存する</p> <p>収穫したトマトをどのように食べるのか話し合う</p>
8月	<p>トマトを給食に使ってもらえるよう、給食調理員さんをお願いする</p>
9月	<p>トマトを使った給食がでた日に、トマトの魅力やおいしさを伝える放送を行う (メニュー: 卵とトマトのスープ、チリコンカン、鶏肉のトマトシチュー)</p> <p>トマトケチャップやトマトジュースについて調べる</p>



## ここがポイント！取組の工夫と実践の成果

### 畑でたくさん収穫する方法を自分で調べる

2年生の時に一人1鉢ずつ植木鉢で野菜を育てた経験を活かし、3年生では、畑で何かを育ててみたい、という思いから活動を始めました。

学年目標に掲げている「三つ星」を引用して凜々子を「三つ星トマト」と呼ぶことにし、一人1苗ずつ栽培しました。トマトの育て方は自分の力で調べました。

### 収穫した「三つ星トマト」のおいしさを伝えたい！！

心配していた「尻腐れ症」は毎日観察することで早期に発見し、すぐに対処できました。しかし、トマトが赤くなると、カラスの食害に遭いました。そこで支柱にCDを括りつけ、ネットを張るなどの対策をしました。

こうして大切に育てた「三つ星トマト」はたくさん収穫できました。まずは、家に持ち帰り食べました。次に考えたのは「(みんなに)おいしく食べてもらうにはどうしたらよいだらうか」という点です。



学校で冷凍保存していたトマトを給食に使ってもらえるように、トマトが使われるメニューの日を献立表で調べ、直接給食調理員さんをお願いしました。使ってもらえることになり、自分たちの手で育てた「三つ星トマト」を知ってもらうために新聞を制作しました。朝会の時間に全校をまわっておいしさを直接伝えました。また、給食の当日には、校内放送でトマトの魅力やおいしさを伝えました。



### トマトへの興味を大切に「トマト博士になろう」

トマト栽培を通して、子どもたちはトマトにさらに興味をもち、「三つ星トマトはかせになろう」と考えました。カゴメホームページの「バーチャル工場見学」を視聴してトマトジュースの作り方を知り、DVDでトマトケチャップの作り方を学び、レポートを作成しました。

ケチャップ以外にも多くのカゴメ商品にトマトが使われていることを知り、楽しくトマトの知識を得ることができました。



### 先生から一言！実践を通して

自分で育てる楽しさを感じることはもちろん、「自分が大好きになったトマトをみんなに食べてもらったり、知ってもらったりするためにはどうしたらよいか」という課題に対し、子どもたち自らが相談しながら考えていくことで解決するという経験ができました。

また「三つ星トマト」(凜々子)の栽培をきっかけにトマト加工品に興味を持ち、トマトケチャップやトマトジュースについて調べて、おうちの方に伝えました。

栽培活動から、給食への採用、自分たちの活動の校内への伝達、さらに家庭での交流にまでつながることができ、一連の活動一つひとつが子どもたちの成長につながったと思います。



### 受賞理由

栽培活動を通して、さらにトマトに興味を持ち、話し合ったりさまざまなコンテンツを活用したりして、楽しみながら学びに生かしている点が光っています。自ら育てた凜々子を給食に使用してもらって、全校生徒に凜々子のおいしさや魅力を伝えた経験は一生の思い出になるでしょう。